

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
芦北町	吉尾地域 (吉尾、市居原、大岩1、大岩2、岩屋川内、黒岩、永谷、上原、内木場、海路、高田辺、箆瀬、上薮)	令和4年3月31日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	129.05ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	65.79ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	48.03ha
i うち後継者が「いない」と回答した農業者の耕作面積の合計	21.05ha
ii うち後継者が「 未定(決まっていない) 」と回答した農業者の耕作面積の合計	15.74ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	2.32ha
(備考)	

2 対象地区の課題

本地域は、農地の広がりのある水田地帯であり、主な作物は水稻である。販売農家も存在するが、ほとんどの農家が自家消費のため耕作管理している。地域内の農業者の状況は高齢化が進み、後継者もいないことから、今後どのようにして農地を守っていくかが課題である。
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地区の農地利用は、中心経営体である農業者6経営体が担うほか、入作を希望する農業者や新規就農者の受け入れを促進することにより対応していく。

4 今後の地域の中心となる経営体の状況

○経営体数 個人 6経営体

5 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

○農地の貸付け等の意向

貸付け等の意向が確認された農地は、約0.5haとなっている。

○農地中間管理機構の活用方針

将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付け、新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。

○基盤整備への取組方針

農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備に取り組む。

○新規・特産化作物の導入方針

近年、イノシシやシカなどの有害鳥獣による農作物被害が増加していることから、集落内の防護柵の設置や猟友会等による捕獲を推進し、農作物の生産量の向上や耕作放棄地の発生防止に努める。